

栄養治療実施計画 兼 栄養治療実施報告書

患者氏名		患者ID		性：男・女		年齢	歳	入院日	年 月 日	
病棟		主治医		NST患者担当者				初回回診日	年 月 日	
NST回診実施者名	医師		看護師		薬剤師		管理栄養士			
NST回診実施者名	歯科医師 歯科衛生士		臨床検査技師		PT・OT・ST MSWIほか		NST専従者氏名			
現疾患			褥瘡	なしあり()	嚥下障害	なしあり()	前回回診日	年 月 日		
その他の合併疾患※1			感染症	なしあり()	社会的問題点	なしあり()	回診日	年 月 日		
身長	cm	現体重	浮腫 有口無口 kg	BMI:	標準体重 (BMI=22)	kg	通常時体重	kg		
栄養評価	主観的栄養評価	アルブミン (g/dL)	リンパ球数 (/mm ³)	ヘモグロビン (g/dL)	中性脂肪 (mg/dL)	トランスサイレチン (TTR:プレアルブミン) (mg/dL)	検査日 月 日		総合評価 (栄養障害の程度)	
	良・普通・悪	検査日 月 日	検査日 月 日	検査日 月 日	検査日 月 日	検査日 月 日	検査日 月 日		良・軽度・中等度・高度	
前回との比較	改善・不変・増悪	改善・不変・増悪	改善・不変・増悪	改善・不変・増悪	改善・不変・増悪	改善・不変・増悪	改善・不変・増悪		改善・不変・増悪	
栄養管理法										
経口栄養	<input type="checkbox"/> 普通食 <input type="checkbox"/> 該当無し <input type="checkbox"/> 咀嚼困難食 <input type="checkbox"/> 嚥下調整食 学会分類コード:() <input type="checkbox"/> 濃厚流動食・経腸栄養剤		経腸栄養※2	<input type="checkbox"/> 該当無し <input type="checkbox"/> 経鼻() <input type="checkbox"/> 胃瘻() <input type="checkbox"/> 腸瘻()		経静脈栄養	<input type="checkbox"/> 末梢静脈栄養 <input type="checkbox"/> 該当無し <input type="checkbox"/> 中心静脈栄養 (鎖骨下・ソケイ部・PICC・リザーバー)			
栄養投与法の推移(前回との比較) (例:経腸栄養 → 経口栄養、経口栄養 → 中心静脈栄養)				□無 () → ()						
投与組成・投与量(該当無しの場合口にチェックを入れること)										
	水分量 (ml/日)	エネルギー (kcal/日)	たんぱく質・アミノ酸(g/日)							
前回栄養管理プラン※3	□無	□無	□無	□無	□無	□無	□無	□無	□無	
実投与量	□無	□無	□無	□無	□無	□無	□無	□無	□無	
投与バランス※4	□無	□無	□無	□無	□無	□無	□無	□無	□無	
新規栄養管理プラン	□無	□無	□無	□無	□無	□無	□無	□無	□無	
栄養管理上の注意点・特徴※5										
活動状況・評価										
他チームとの連携状況	嚥下障害チーム (あり なし)	褥瘡対策チーム (あり なし)	感染対策チーム (あり なし)	緩和ケアチーム (あり なし)	その他のチーム (チーム)					
治療法の総合評価※6 【 】 ①改善 ②不変 ③増悪	【評価項目】※7 1. 身体的栄養評価: 改善度 5・4・3・2・1 (改善項目:) 2. 血液学的栄養評価: 改善度 5・4・3・2・1 (改善項目:) 3. 摂食・嚥下状態: 改善度 5・4・3・2・1 4. 褥瘡: 改善度 5・4・3・2・1 5. 感染・免疫力: 改善度 5・4・3・2・1 6. 7.					コメント※8【入院中・転院・退院】:				

※1:褥瘡・嚥下障害・感染症以外で、栄養管理に際して重要と思われる疾患を優先的に記載すること。
 ※2:投与速度と形状(半固形化の有無など)を含めて記載すること。
 ※3:初回時には記載を要しない。
 ※4:必要に応じ患者及び家族等に確認し、提供している食事・薬剤のみではなく、間食等の状況を把握した上で、体内へ入った栄養量を記載するよう努めること。
 ※5:栄養管理の上で特に注意を要する点や特徴的な点を記載すること。
 ※6:栄養療法による効果判定を総合的に行うこと。【 】内には、①～③のいずれかを記載すること。
 ※7:評価項目中変化があった項目を選択し、程度を「5:極めて改善」「4:改善」「3:不変」「2:やや悪化」「1:悪化」の5段階で記載すること。また、改善項目の詳細も記載すること。なお、必要に応じて項目を追加しても構わない。
 ※8:治療評価時の状況として「入院中」「転院」「退院」のうちいずれか一つを選択し、栄養治療の効果についての補足事項や詳細を記載すること。特に、「転院」又は「退院」の場合にあつては、患者及び家族に対して今後の栄養管理の留意点等(在宅での献立を含む。)について丁寧な説明を記載するとともに、転院先又は退院先で当該患者の栄養管理を担当する医師等に対し、治療継続の観点から情報提供すべき事項について記載すること。